

平成8年3月5日発行

Children's Corner

わたしたちの作品

草部中学校

3年生



田上 雄一さん



橋本 紘樹さん

校庭の風景



【上島先生から】
3年の教室から見た校庭の風景です。雄一君の性格のように、こつこつと根気強く、ていねいに描かれています。明るくきれいに仕上がりました。

見慣れた風景に心を込めて



【上島先生から】
誰もが毎日使っている、見落としてしまっているそんな手すりですが、そんな所にも目を向けた紘樹君は素晴らしいと思います。色使いも良く、ていねいに描かれています。

手作りの交通安全劇



魔物にうさぎのミミちゃんをさらわれ大騒ぎ。セーラームーンも登場してミミちゃんを救おうとするが、魔物が操る自動車に阻まれてうまくいかない。その時「車を止めるには手を上げる」を思い出して、手を上げたところ車が止まり、ミミちゃんを救うことに成功。魔物もこの「パワー」には勝てず、退散するという話。最後は魔物も改心し、みんなで交通安全の歌を元気に歌いました。
私たちは、子どもたちのこの気持ちを真切に受け取り、安全運転に心がけたいものです。

むずかしい 子どもへの交通安全教育



子どもたち…特に小さい子どもたちへの交通安全教育は難しいものです。このため、町内の幼稚園や保育園では、子どもたちに分かりやすく具体的な交通安全教育を行っています。
2月18日、高森保育園でも子ども交通安全教室が行われ、園の子どもたちは同園保護者会(白石一弘会長)によるユニークな交通安全劇に引き込まれ、熱心に見入っていました。

町民憲章

1. 水と緑と土のにおい、いっぱいの住みよい町にします。
2. 伝統を重んじ、文化の薫る潤いのある町にします。
3. 老人を大切に、子供の夢を育て幸せな町にします。
4. 勤労を尊び、産業を振興し活力のある町にします。
5. スポーツに親しみ、心身をきたえ健全な町にします。



PUBLIC INFORMATION

Editorial

編集後記

物から心の時代へ

「飽食の時代」「物余りの時代」などと言われるように、日本の高度成長時代のひずみがいたるところで益々現実性を帯びてきて、今後私たちの生活に影響を及ぼしてくると言われています。
しかし、高度成長の恩恵を受けたことも事実であり、この三月、町内の各中学校では卒業式が挙行され、町の中学校と高校でも若鳥たちが母校を巣立っていった。故郷高森を誇りとし、あらゆるところで奮闘をお祈りする。
今年の野尻中と河原中の卒業生は五十一名。その内進学者が十三名、他県の商工部門への就職が二十三名、農業への従業者が十五名で、ここにも農家人口の減少が現実に見られている。
これは青年達の単純なる都会への憧れといいたものではなく、今日の経済発展構造から出た必然の結果であり、野尻地区に限った事でもなく、日本全体に言えることである。
ああ、しかるに日本の農業はどうなるものであろうか。生きるに欠かせない「食」、そして植林が進んだ、うるわしき山々のゆく末やいかに。
昭和三十六年四月発行第二十一号の「野尻出張所だより」から(この号からタイプライターを使ったガリ版印刷となる)

昭和三十四年八月一日生まれ、今月で四百三十九回目の「広報たかもり」三十八年七月号のたかさんの思い出の中から、今でも通じる、これからのまちづくりの役に立つ話や、皆さんの優しい心にうったえる…そんな昔話のはじまりはじまりー

昭和三十六年三月、町内の各中学校で卒業式

広報たかもり 昔話

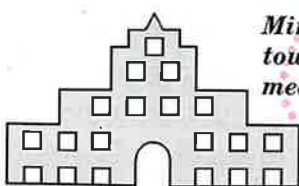
その2



平成八年第三回の町議会臨時会が二月十三日に開かれ、慎重審議の上、次のとおり可決されました。

■平成七年八月二日議会臨時会において議決された、町道大戸の口・本河原線道路改良工事（一工区）請負契約のうち、工事内容の変更のため、契約金額七千六百七十三万五千円を八十六万五千円増額して、七千七百六十万円に変更することとなりました。

第3回 町議会臨時会



Minutes from town assembly meeting

議会だより



"春の息吹き" まもなく

お気軽にお越しください



南阿蘇ビクターセンターで自然学習を

入館料 無料

- ★ 高森の素材を生かした「食」づくり
- ★ 「食」意識の向上
- ★ 1999 未来国体に向けた「食」のまちづくり



事例発表
白石久美子さん

高森町大字河原、市野尾在住。農業形態は畜産と有機農業による野菜づくり。蘇陽町から高森に移り、ご主人と共に「土の力」を信じて有機農業に取り組み十五年。現在自信を持って、消費者と生産者のつながりにも力を入れ、「安全で、安心して食べられる野菜作り」とうたったえらわれている。

事例発表要旨

土への思い

私は「百姓」という言葉が好きで、誇りを持っています。それは人が生きるには欠かせない、身体づくりに最も大切なものである食べ物を作っているからです。

有機農業は理想と言われます。私と主人との取り組みも、確かに苦しく難しいものでした。しかし、人の口に入る食べ物の安全性を考えた場合、有機農業は重要なものだと思って頑張りました。

それは「土の力」を信じ、土づくりから始めることで、ノウハウの蓄積には長い時がかりでしたが、年々野菜は私たちに応えてくれるようになり、今は自信につながりました。

食べ物は人の命に関わる大切なものです。私は生産者として自信を持って、消費者とのつながりを持つように努力しています。

私たちの取り組みを、皆さんに広げていきたいですね。



阿蘇 裕矢さん（百本システム開発）
まず、「外を見よ。外から見られよ」の精神と「外」を見て経験し、反応を知って、人との出会いと交流を町発展へのエネルギーにしましょう。歴史や自力のある町には、何も宣伝しなくても人が寄るといふことを知り、とにかく動き出しましょう。町の皆さんみんなが、高森をどうする

目的意識と向上心による、具体的な行動をすぐ始めよう

シンポジウム要旨

コーディネーターまとめ

という明確な目標と向上心を持って、一致団結で明るいまちづくりをしましょう。「食」は様々な発展の源です。これを一つのテーマとして、人づくりによる、皆さんの積極的な社会への参加精神と、この動きを広く伝えるための積極的かつ具体的な行動が、今、すぐに求められているのです。

高森には田楽をはじめ、地方豊かな食べ物、食材があります。しかし、時代と共に失われつつあるものもあり、あらためて私たちは「食」について見直さなければなりません。また、「食」は私たちの生活に欠かすことのできない大切なものであり、様々な分野の発展に深く関係しています。

これは、食の材料が農業に結びつくように、観光はもろろ、商業、流通などの産業面や、身体づくりから考えれば、健康面や子どもたちの教育にも関係しますし、人間の「食べる」という行動は多面的な要素を含み、あらゆる発展の源であるということです。

そういった意味から、地域住民、行政が一体となった情報交換や知識の習得に努めて、「食」を「まちおこし」に活用し、新たな食文化の創造と「味な高森」：「味わいのあるまちづくり」に結び付けようと、「食」のシンポジウムが開催され、会場は約二百人の人たちの熱気に包まれていました。



講師「料理の鉄人」
斉藤 隆士さん

斉藤氏は18歳で東京新橋の四川飯店で陳建民氏に師事し、東京、札幌などの有名中華料理店に勤め、一九七五年に熊本ホテルキャッスル中華料理長となり、現在に至る。テレビの「料理の鉄人」でも広く知られ、中国料理の素晴らしいさを全国に伝えるべく、精力的な活動を展開中である。

基調講演要旨

郷土の味覚とは？

「料理は心」と良く言われます。どんな料理も、心が入らないとおいしくありません。料理の原点は、和と協力…そんな真心のこもった家庭料理にあり、また、料理を作る人は常に研究心旺盛でなくてはなりません。

「郷土の味」をまちづくりに生かすには、そこにしか無いという独自性を持つことです。そのため、何がお客さんに好まれるかを常に考え、アイデアと研究心を持つことが大切です。

「良い料理」には「良い材料と環境」が必要です。高森にはその要素がたくさんあります。それらを生かす皆さんの発想で、お客さんが高森に来やすい環境作りをしてください。

観光はイメージづくりで決まります。「高森は素晴らしい」と誰からも思われるように、物的、人的資源を生かし、バランスのとれた計画とイメージを創ってください。

シンポジウム要旨
パネリスト意見発表

原武 博之さん（RKKアウザー）
料理の味付けには味噌、醤油、酒が欠かせない。高森にはこのすべてがあるので、これらを生かし、他と違う特長を作ることが大切。

池部美恵子さん（料理研究所）
料理には建物の雰囲気や景色、匂と共に火の大切さも忘れてはならない。また、この

高森に豊富にある山々の素材の掘り起こしを目指そう。

宇野 巧一さん（菊陽自営酒店）
古いものを大切にしながら、新しいものを作りだそう。雄大なこの自然の中に育った高森の皆さんの心の広がりを生かせば発展する。

田上 由紀さん（山野草料理店）
みさお大豆やソルノコ芋など、町の優れた素材を見直し、農家との連携で生産活動に結び付けなくてはならない。

新酒とふるさとの味まつり

3月17日(日)昼12時から午後3時まで 高森駅広場

『食』のまちづくりシンポジウム

町活性化研究会主催
国民休暇村セントラルロッジ

2/18

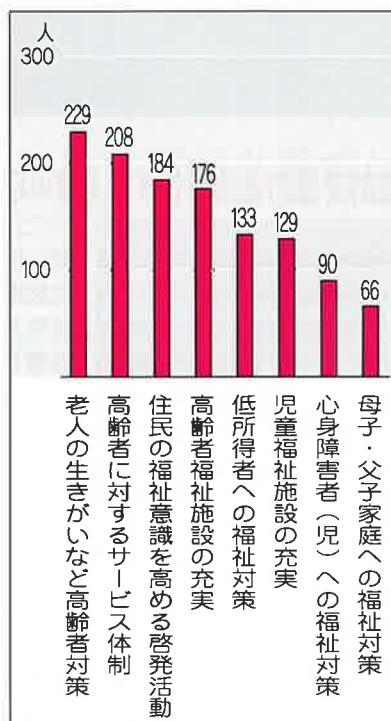
町内在住者へのアンケート調査から

生活・福祉面で望むことは？ 3つまでの複数回答

保健・医療面



福祉面



生活環境面

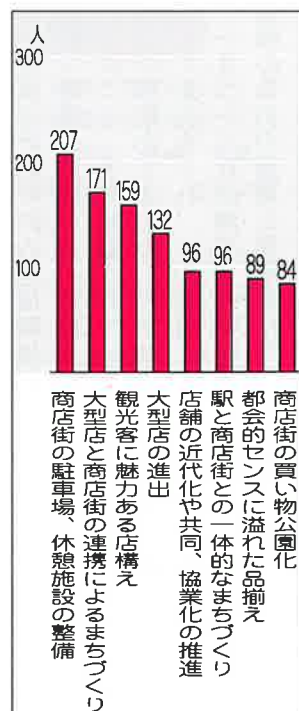


産業面で望むことは？ 3つまでの複数回答

観光面



商業面



工業面



農業面



まち発展へのヒントを得る

町では昨年11月から町内の皆様を対象としたアンケート調査を行いました。これは、町施策の立案に生かすことを目的としたもので、全町内を対象として1000人を無作為に抽出し、郵送により500人の方から回答をいただきました。先月号の「外からの目」に続いて、今月は「内からの目」として、アンケート結果の中から一部を速報致します。

町ではこの結果を今後のまちづくりに生かしていきます。

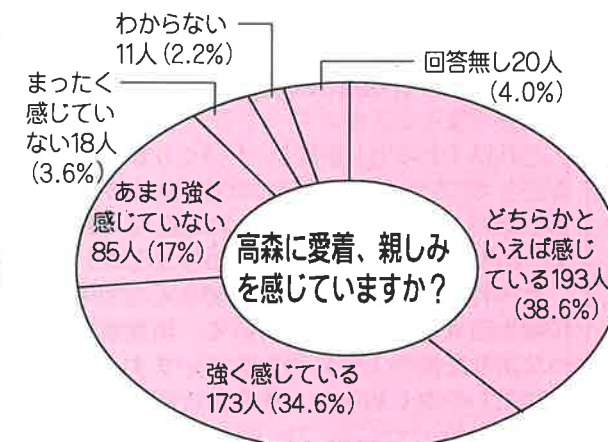
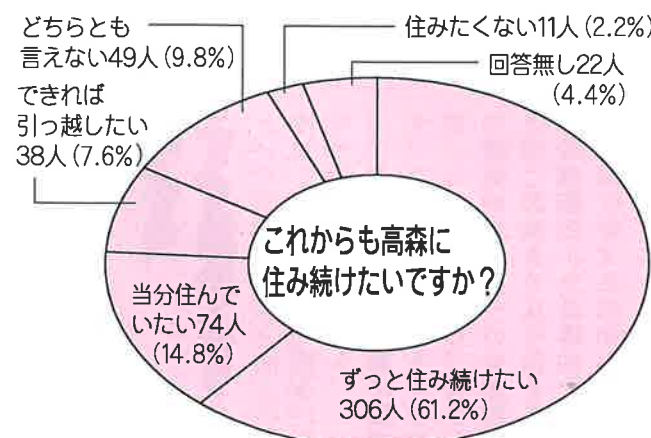
アンケート回答数 ■男230 ■女252 ■不明18 合計500

全町対象アンケート

地区名	年齢層	配布数	回収数	回収率
草部地区	1 (20歳代)	21	7	33.3%
	2 (30歳代)	29	8	27.6%
	3 (40歳代)	40	20	50.0%
	4 (50歳代)	46	18	39.1%
	5 (60歳代)	33	23	69.7%
	年齢不詳合計	—	0	—
		169	76	45.0%
高森地区	1 (20歳代)	96	37	38.5%
	2 (30歳代)	124	60	48.4%
	3 (40歳代)	141	77	54.6%
	4 (50歳代)	118	60	50.8%
	5 (60歳代)	79	48	60.8%
	年齢不詳合計	—	1	—
		558	283	50.7%
色見地区	1 (20歳代)	18	4	22.2%
	2 (30歳代)	33	18	54.5%
	3 (40歳代)	39	14	35.9%
	4 (50歳代)	33	16	48.5%
	5 (60歳代)	29	16	55.2%
	年齢不詳合計	—	0	—
		152	68	44.7%
野尻地区	1 (20歳代)	13	4	30.8%
	2 (30歳代)	22	8	36.4%
	3 (40歳代)	25	9	36.0%
	4 (50歳代)	29	15	51.7%
	5 (60歳代)	32	14	43.8%
	年齢不詳合計	—	0	—
		121	50	41.3%
地区不詳	1 (20歳代)	—	23	—
	2 (30歳代)	—	—	—
	3 (40歳代)	—	—	—
	4 (50歳代)	—	—	—
	5 (60歳代)	—	—	—
	年齢不詳合計	—	—	—
		—	23	—
全体	1 (20歳代)	148	52	35.1%
	2 (30歳代)	208	94	45.2%
	3 (40歳代)	245	120	49.0%
	4 (50歳代)	226	109	48.2%
	5 (60歳代)	173	101	58.4%
	年齢不詳合計	—	1	—
		1,000	500	50.0%

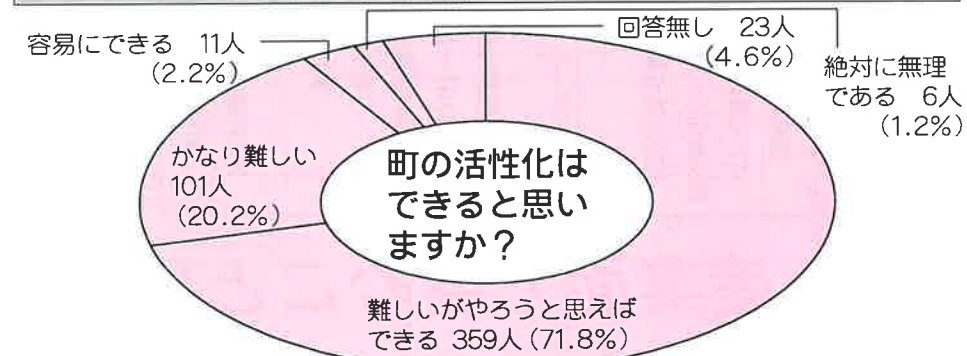
地区別・年代別 アンケート回答率

アンケート結果は高森、色見、草部、野尻の4地区に分けて集計されていますが、今回は全町結果を掲載しています。





高森を個性的で魅力ある町にするための方向性は？ 3つまでの複数回答



まちの活性化は絶対必要
高森・色見・草部・野尻の
特色を生かし 四地区が
力を合わせた人づくりから



人づくりから

この懇談会を組織したもう一つのねらいは、町の次代を担っていく若い人たちに、町の発展について真剣に考えていただくためのムードづくりをすることにあります。この懇談会に限らず、若い方々は家庭や地域、職場など、あらゆるところでリーダーシップを発揮していただきたいものです。また、町では今後も教育面や産業面、福祉面などあらゆるところで「人づくり」のための施策を展開していくことにしています。

事業化可能性調査懇談会 活動紹介

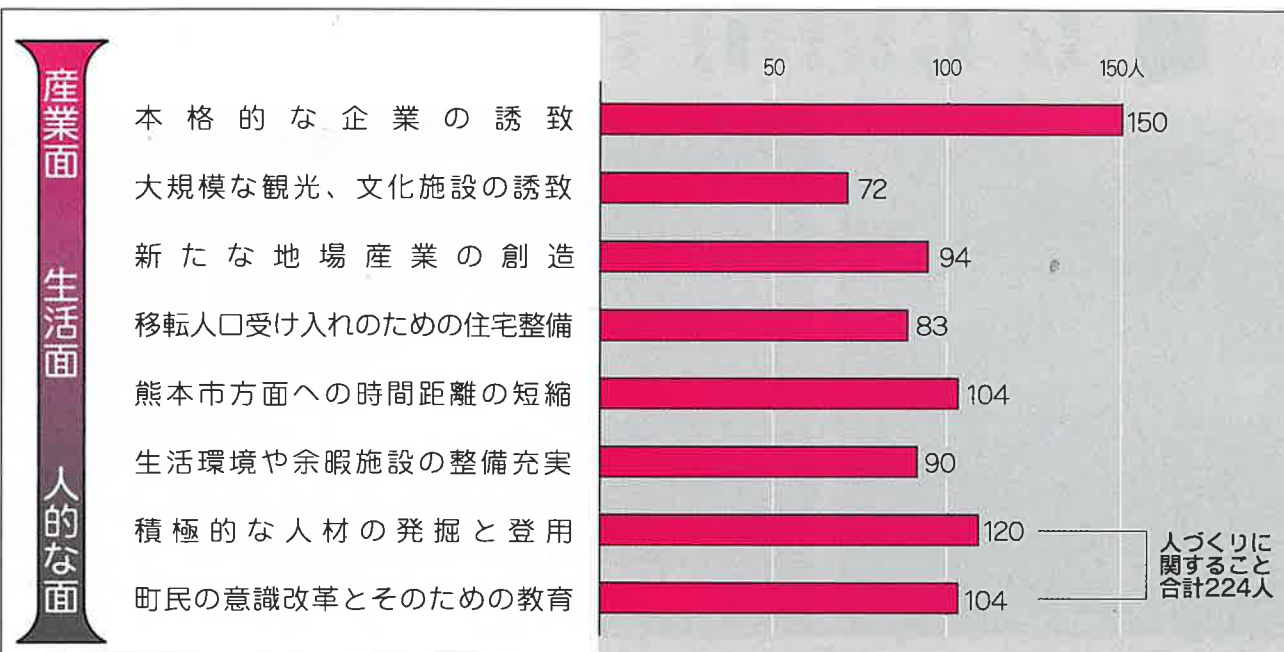
町では、これからの「まちづくり」を考えるために、様々な事業化に向けた可能性を調査するための懇談会を組織しています。これは町全体の将来方向性と、高森・色見・草部・野尻、それぞれの地域発展の方向性を明らかにし、具体的な事業化に向けた可能性を探ろうというもので、メンバーは二十二名で組織されています。

この懇談会でまとめられた結果は、今月中に調査報告書としてまとめられ、町の発展に生かされていきます。

一月二十三日に開催された懇談会では、一人ひとりが町発展のための展望と問題点について意見を出し合いました。この日の検討結果でも、アンケートの結果と同じく、「人づくり」の重要性があらためて認識されていたようです。



町の活性化のためには、何が必要でしょうか？ 3つまでの複数回答



町発展の基本計画とは？

町では「今後高森をどのように発展させていくか」という、長期の視野に立った高森町振興計画を策定しています。この計画を基本計画として、福祉、医療、産業、交通通信、教育など、町全体の振興を目的とした具体的な施策を展開しているところです。

これらの計画を具体化させるためには、広い高森すべての発展を目指して、「それぞれの地域の特色をどのように生かしていくか」を真剣に考えることが大切であり、四つの地域性を生かした計画（ゾーニング・プラン）を作り、色々な方策を検討、実行しています。

又、全国的にも進められているグリーン・ツーリズム構想も展開していきます。これは、休暇の増加が進み観光旅行も滞在型、体験型へと変化している中で、都市に暮らす人々は農業や林業など農村に深い関心を寄せており、一方農山村においても農村リゾートなどによる都市との交流が目ざされていることから、自然、文化、農林水産業などを生かして、様々な整備を図り、みんなでゆとりある生活をめざそうとするものです。



まちづくりは

懇談会員紹介 (敬称略)

田代靖人 相馬明子
宇藤康博 後藤勝博
幸野道治 甲斐由合
二子石富士男 伊東義昭
進真理子 田上更生
後藤安代 吉良充展
役場職員八名(八課所から)、県職員二名の二十二名で組織

また、これとは別に、役場十三課・局・所長で組織された「庁内検討会」も組織されています。

戦いの悲惨さを忘れず

平和な世界の創造をめざす

特集

戦後50年

最終回

「戦争は悲惨なもの、絶対にしてはならないもの」ということは、誰もが分かることだ。日清・日露戦争から徐々に、止むを得ない状況下において、激しい戦争へと突き進んだ歴史の中で、国と家族や故郷を守る一で戦地に向かい、命がけで戦った方。その戦火で尊い生命を失い、二度と再び故郷の土を踏むことが出来なかった方。病氣や負傷された方。そして、兵士のみならず、家や地域を守るために、言いつに言われぬ苦勞をされた奥さんや子どもさんなど、多くの人の苦しみと悲しみがあつたことを忘れてはなりません。

今日の日本の繁栄は、この方々の「犠牲」の上に成り立っているものであり、私たちは深い哀悼と感謝の念を忘れてはならないと共に、いつの世も「何ものにも代え難い平和の尊さ」をしっかりと認識する必要があります。

そのためには、戦時中のごときをたくさんの人から聞き、その中から一人ひとりが感じた真実やそれぞれの想いを、永遠に語り伝えることが大切です。また、取材での皆さんのお話の中から、「故郷や家族、そして日本を愛し守ろうとする本当の心を育てるために、私たちは自らの行動を省みて、真実を洞察する力を持って、次世代を担う子ども達の健やかな心を育む責任がある」と強く感じました。

この特集は今日まで終了いたしますが、本町では平和の大切さを忘れることなく、今後もあらゆる行政施策に反映させてまいります。これまでの「愛読」に感謝致しますと共に、取材で協力いただいた方々に対し、厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

日本近代史 戦争の歴史 おもなもの

- 明治27年（一八九四） 8月 日清戦争勃発
- 明治28年（一八九五） 4月 日清講和条約締結終戦
- 明治37年（一九〇四） 2月 日露戦争勃発
- 明治38年（一九〇五） 9月 日露講和条約締結終戦
- 大正3年（一九一四） 6月 オーストリア皇太子暗殺。これが第一次世界大戦のきっかけとなる。8月 ドイツに対して宣戦布告。11月 日本軍、青島を上陸。
- 大正4年（一九一五） 1月 中国に対し、21カ条の要求を提出し、同年5月 中国が21カ条の要求を受諾。
- 大正7年（一九一八） 5月 日華共同防敵軍事協定。8月 シベリア出兵。
- 大正8年（一九一九） 9月 シベリアから撤兵開始
- 大正11年（一九二二） 2月 太平洋に関する四カ国条約。中国に関する九カ国条約がワシントンにて締結。
- 大正12年（一九二三） 9月 関東大震災。
- 昭和6年（一九三一） 9月 満州事変勃発
- 昭和7年（一九三二） 3月 満州国建国
- 昭和8年（一九三三） 3月 日本、国際連盟を脱退
- 昭和9年（一九三四） 12月 日本、ワシントン条約破棄をアメリカに通告。
- 昭和11年（一九三六） 1月 日本、ロンドン軍縮会議からの脱退を通告。
- 昭和12年（一九三七） 7月7日 日中戦争勃発 支那事変。12月13日 南京を上陸。
- 昭和16年（一九四一） 12月8日 太平洋戦争勃発
- 昭和17年（一九四二） 1月2日 日本軍、ミッドウェー占領。2月 シンガポール攻略。同3月 ジャバ占領。6月5日 日本軍、ミッドウェー沖海戦で大打撃を受ける。8月7日 日本軍、ガダルカナル島に上陸。
- 昭和18年（一九四三） 2月1日 ガダルカナル撤退。5月29日 アッツ島の日本軍玉砕。10月 学徒動員開始。
- 昭和19年（一九四四） 6月 マリアナ海戦開始。6月15日 米軍、サイパンに上陸。11月24日 サイパンから日本本土爆撃開始。
- 昭和20年（一九四五） 2月4日 米・英・ソでヤルタ会談。5月7日 ドイツ降伏。8月6日 広島に原爆投下。8月8日 ソ連、日本に宣戦布告。8月9日 長崎原爆投下。8月15日 日本、ポツダム宣言受諾終戦。



一人ひとりの責任感と 自覚が平和を創りあげる

終戦から五十年も経ったのかと思うと、長い様であり、短い様であり、何とも言うに言われぬ複雑な思いがします。私は大正六年五月生まれで、昭和十三年一月、久留米の独立山砲留守隊に入隊し、日支事変では中国の支、第二次世界大戦ではビルマ戦線に従軍して、そこで終戦を迎え、昭和二十一年六月に横須賀に復員しました。

この戦争は日本全土が止むに止まれぬ状況下によって、突き進んでいった時でした。た。終戦を聞いた時は信じられず、茫然自失。何のためにここまで苦勞したのかと情けなくなりました。兵士と日本内地の苦勞など、日本国民すべてが心に大きな傷を負っており、戦後一時期、意気消沈したものの、終戦の悔しさ



森 正六さん 大字河原

戦後の護り 様々な苦勞 夫の二度目の出征では 覚悟を決める

私の夫、幸作は、明治三十七年二月生まれで、昭和四十八年五月に他界致しました。夫は二回戦地に向かいしました。一回目は昭和十二年の日支事変が勃発した直後に出征し、熊本第六師団の野砲兵として中国戦線に従軍。昭和十六年に無事復員したものの、終戦も近くなった昭和十九年に再び入隊。戦況思わしくなくなってきたこの時は、二度と再び会えることはないものと覚悟を決めました。夫が戦地に身を置いたのは、もう既に三十歳後半から四十歳代であり、色々な苦勞があつたようです。終戦となり、復員してきた時の喜びは、娘も



東ユキ子さん（写真左）と長女的美津江さん 大字高森・上町

「バネ」となつて「負けてなるか」の一心で、日本復興のための「戦い」に日夜没頭して、今日の繁栄が築かれたものと思ひます。

また「日本は世界を知らなかった」この一言に尽きる気がします。島国日本の良い所ももちろんありますが、異国との交流がほとんど無かつたことが、世界は日本と同じと見てしまつた原因であると思ひます。

二度と再び、日本を戦火にまみえさせてはなりません。そのためには、私たちの果たす役割を一人ひとりがきちんと自覚しなければなりません。それは目標と向上心を持つて、権利だけを主張するのではなく、社会的責任や義務をきちんと果たすことが大切だということです。

そんな中から世界や社会を大切にし、人を人として尊重し合う優しい心や、「人として絶対しなければならないこと」と、絶対してはならないこと」という道徳心が蘇ってくるものと思ひますし、子どもへのしつけをはじめとした家庭や学校教育の大切さを、私たちは見直さなければなりません。

この気持ちを永久に伝える責任を自覚したいものです。

私も生涯忘れることはできません。家に残つたのは私と娘の二人だけ。もちろんご近所も同じ状況で、女、子どもだけの「戦後の護り」の生活が長く続きました。国防婦人会活動はもちろん、今で言う消防団活動まで、私たち女だけで力を合わせて地域を護るすべののをしていました。

食糧は配給制で満足とはいえず、毎日カライモばかり。それもツルまで食べて飢えをしのぐ状況で、道の草も食べられるものは、何でも食べました。衣服や履き物も不足し、兵器製造のために、生活に必要な鍋釜類以外の金属類はすべて供出しました。もちろん戦地の苦勞は私たちの比ではないでしょうが、日本内地にも言うに言われぬ苦勞がありました。

今思うとそういう時代があつたのだらうかと思ひますが、平和な日本になりましたが、色々なことを思ひ出すと、この平和を素直に喜ぶ気にはなれません。そして今なお、世界のいたる所で戦火が続いていることを思うと、悲しみでいっぱいになり、「どうして仲良くできないのか」と叫びたい気持ちになります。

芽生えています

子ども達の国際交流

International Relations

国際交流

真の交流と理解は実際の体験による認め合う心から

11/30
12/7

阿蘇郡町村長

海外視察研修 報告

阿蘇郡町村長会事業による海外視察研修に参加しましたので、ご報告申し上げます。

今回、ニュージーランドのオークランドをはじめ各都市の福祉施設（保健・衛生）と観光施設（資源の開発と保護政策）、そして産業経済政策（阿蘇赤牛の現地での繁殖状況や野菜・花きの流通市場視察）について視察研修し、今回は特に本町農業面の行政施策展開に役立たせるための、分析と考察を行ってみたい。

また、阿蘇郡12カ町村の連携と確固たる精神と施策によって、間近に迫った21世紀を力強く生き抜くために、優しい心とバイタリティー溢れる心を育む「真の国際感覚」を身につける必要性を再認識したところです。

高森町長 今村 博 信

今村町長の

ニュージーランド紀行

ニュージーランドの概要

人口三百七十万人、羊の数はその十六倍、牛は四倍という畜産王国のニュージーランド。特にクライスチャーチのカンタベリー地方の平野では、限らない平原が続き、時間に固執せずいかにも伸び伸びとした暮らしが展開され、同国の人々のおおらかな人間性は

こういったところから生まれるのだと再確認したものである。時間差は日本時間に四時間足す程度で「時差ボケ」もほとんど感じなくて良かったが、やはり南半球の国である。成田空港を出発して途中乗り換えがあるものの、十二時間かけてオークランドに到着した。換算レートは、日本円の0・7、貨幣単位はドルなどの説明を聞きながら、国内線に

乗り換えてクライスチャーチに向かった。

ニュージーランドを代表する動物はトウアタラという大トカゲと、体重が増えすぎて飛べなくなったと言われるキーウイである。（同名の果物、キーウイもこの国の特産）

また、この国は「禁煙王国」であり、禁煙の場所「二服」やると四百ドルの罰金がついている。

内モンゴルから絵が届きました



上色見小学校
中国・内モンゴルの学校と絵で交流

上色見小学校（東認校長 児童数46名）に一月十一日、中国・内モンゴル自治区、「イクザオミン、モンゴル族中学校」から絵画四十六点が届きました。

これは、絵の交換によって同校の子どもたちに、異国の文化に直接接し、真の国際性を身につけてもらおうと行われたもので、同校からは昨年十一月に子どもたちの絵画作品が送られており、今回はその「お返し」として送られてきたものです。

子どもたちは、保護者会長の本田研一さんから内モンゴルについての話を聞きながら、送られてきた絵を熱心に見入っていました。

今後この交流を契機として、相互理解による国際交流に目覚め、真の国際人にふさわしい優しい心を身につけていくって欲しいものです。



内モンゴル紹介

もともと、統一国家であったモンゴルは、中国史の「元」時代以降に国力が衰え、中国領内の内モンゴルとモンゴル国に国土を二分した。モンゴル国は旧ソ連の影響でロシア語教育が進み、モンゴル語の読み書きができる人が少なくなったが、内モンゴルは中国の少数民族政策により民族言語を守ることができた。戦前「満蒙開拓団」として、本町から入植した人も多い。産業は牧畜で、熊本名物の馬刺しもすでに、内モンゴルから入っているものもある。人口約1930万人。

モンゴル文字

上色見
 Mongolia
蒙古

イクザオミン校長先生からの手紙

貴校児童の絵画作品確かに受け取りました。本当にありがとうございました。私たちの学校は日本で言う、1年生から5年生までが小学生で、6年生が中学生であり、20クラス920人の児童生徒と教職員が130人の学校です。（今年から日本語を学ぶクラスを開設）貴校との交流により、今後益々揺るぎない友情を育みたいと思います。

畜産王国のスケールの違い

十二月五日、草地畜産の実体をつかもうと、私たちは標準的な一軒の牧場を訪問した。そこはジルさんという奥さん一人と牧羊犬二頭で、60haという広大な牧場を経営しており、子ども達は遠くで働いているとのこと、日本の様に後継者不足が心配されるようになるのだろうかとも思われた。ここで私は羊の毛刈りを体験。羊一頭で大人のセーターが四枚出来上がるのことで、出荷は一頭で麻袋一つに約5キロ入るが、1キロが4ドル60セントなので23ドル（日本円で千六百十円）となり、千頭でも百六十一万円にしかならず、セーターの製品価格一万円を考えると、農家の手取りは少なく感じられた。

広々とした ジルさんの農場



オークランドに赤牛の子孫

阿蘇の赤牛の繁殖状況を研修した。

十二月五日、サラリーマンのかたわら牧場に投資しているというケントさんの牧場にうかがう。同氏は日本にも研修に来ており、柔らかな適度な脂肪を有する「キーウイ神戸ビーフ」を開発するなど、研究熱心であった。

同氏の話によると、米国からオーストラリアに渡った牛の子孫である牝牛「シルク」の種を輸入したとのことで、同氏の広い牧場の一角に案内され、まさしくそこに褐色の阿蘇赤牛（牝牛二頭）の存在を確認した。

阿蘇の赤牛と同じ祖先を持つこの牛たちに、親近感をおぼえ、「しつかり頑張れ」と語りかけたくなったものである。その他、赤牛と乳牛（ハーフアングス）との掛け合わせなど、同氏の研究熱心さには驚くものがあり、香港などからの輸入希望が多いことなども聞いた。

以下次号に続く



高森警察署 野尻駐在所
佐々信三



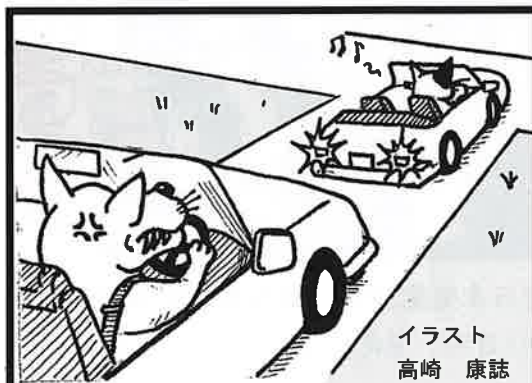
ぜひご覧ください

野尻駐在所に先春着任し、早くも一年となりました。大きな事件、事故もなく、無事日々を迎えられるのも、地域の皆様のご協力のおかげです。私は生まれも育ちも菊池郡の七城町です。姓の「佐々」は珍しいですが、わが故郷においては大変多い姓です。阿蘇の勤務は初めてです。本当に阿蘇は素晴らしいところですね。春の新緑、夏の清涼、秋の紅葉など、ここは極楽バイと、大変嬉しく思っております。

また、「阿蘇の冬」も経験しましたが、強烈な寒さですね。これまでの「極楽」でゆるんだパンツの紐をしっかりと締め直し、覚悟を新たに冬を乗り切ってまいりました。

さて、昨年十一月、野尻駐在所に新しいパトカーが配置されました。ダイハツ・ロッキーの千六百ccです。見かけられたらお気軽に手を振ってください。サービスでサイレンを鳴らしてお応えします。(冗談です)

これからも地域の平穏と、住民皆様の安全のために、努力邁進致します。今後ともよろしくお願い致します。



どっちに曲がるの？ 右折、左折の合図は早めに正しく

道路の右折、左折ではウィンカーで正しく合図しましょう。いきなりの方向転換は危険です。小さい道路でも忘れずにちゃんと合図をしましょう。また歩行者にも右左折の合図をすることは、交通安全につながります。



▼特に三歳までの間は、親や家族は子どもに対して、スキンシップで愛情を注ぎ、適正、的確なしつけをしましょう。

▼時間は短くても、子どもの対話を欠かさず続けましょう。

子育てサークル 風まるキッズ 活動中
子育ての悩み 話し合いましょう
毎週火曜日 10時からお昼まで
高森町中央公民館(昭和)
おたすねは保健衛生係までどうぞ

町の「子育て教室」が、子育てサークル「風まるキッズ」というお母さんたちの自主活動に結びつきました。子育てをむずかしく考える、悩みを一人で抱え込んでしまう心配があります。子どもと楽しく遊びながら、日頃の子育ての悩みを、みんなで気軽に話し合ってみよう。

子ども育児相談

問 子どもは、なぜ勉強嫌いになってしまったのでしょうか？

答 これは学業面に限らず言えることですが、子どもにやる気を起こさせるにはどうしたら良いかということですね。

学ばざるの基本的には、学ばざるは面白く感じさせることであり、「勉強しなさい」の一点張りでは子どもの心を動かすことはできません。「無理矢理の押し付け」はしばらくは親の思いどおりの結果が得られるかも知れませんが、いつかは子どもは重みに耐えられなくなって、全くやる気を無くす事例が多いと報告されています。

しかし、子どもは誰でも旺盛な好奇心を持っており、「知る喜び」を分かち合えば、学業はもちろんならぬことへの関心が高まり、言わずとも何にでも積極的に生きていくものです。

それには食卓で、家族の一日の出来事や、親が時事、社会問題の中から子どもに合う楽しい話をするにより、子どもの視野を広げ、物事への興味を深めさせてやるのが大切です。

託摩武俊著「伸び伸び子育て」から

熊本県福祉総合相談所

いじめ、不登校、非行、育児、しつけ、心と身体の発達など、子どもに関するご相談はお気軽にどうぞ。

こども110番
☎ 096-382-1110

☆月～金 午前9時から午後7時 ☆土、日 午後4時まで
祝祭日、年末年始はお休み

家庭教育 子どもたちの心と身体を育むために
Family Moral Education

消防署だより

消防なんでも南部分署

高森町は火災・救急とも減少

発表 平成7年の各町村の火災・救急件数

区分	火災					救急											
	前年	合計	建物火災	林野火災	車両火災	その他	前年	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	その他
一宮町	3	3	2	1			213	245				62	2	5	23	1	38
阿蘇町	15	17	10	3		4	536	513	1			106	4	6	47	2	103
南小国町	8	7	6	1			86	94				24	4		16	1	5
小国町	12	6	2	3		1	247	254				31	4		24	1	44
産山村		3	2	1			27	34			1	4	3	2	7		17
波野村	1	2	1	1			44	36				8		2	7		19
蘇陽町	2	4	2	2			87	87				16	2		10		27
高森町	11	4	4				145	139				25	4	1	22	1	65
白木村	4	2		2			77	76				13	1	1	13		45
久木野村	3	2	1		1		45	65	1			8	3		16	1	11
長陽村	6	8	1	3	1	3	149	180	1			42	4	1	19	1	54
町村外(その他)								4				1	1				2
合計	65	58	31	17	2	8	1664	1727	2	1	1	340	32	18	204	5	305

阿蘇広域消防管内の平成7年中の火災、救急による出動件数を集計しました。火災は58件で7件減少したものの、救急出動は1727件で、83件も増加しています。防火と安全について、万全の対策と、益々の注意をいたしましょう。

健康は食事から

Cooking

作り方

1. 米は洗って30分以上水につけてから炊く。
2. 炊きあがったら、熱いうちに合わせ酢を混ぜておく。
3. ツナ缶は汁ごと鍋に入れ、Aを入れて炒る。
4. キュウリは薄く輪切りにし、塩もみして水気を切る。
5. 卵はよくほぐし、薄焼き卵にして干切りする。
6. 人参は型抜きするか細切りにしてゆでる。
7. すし飯にツナ、キュウリを混ぜて皿に盛り、人参と卵を飾り付ける。青シソ、刻みノリがあればちらす。

ツナちらし



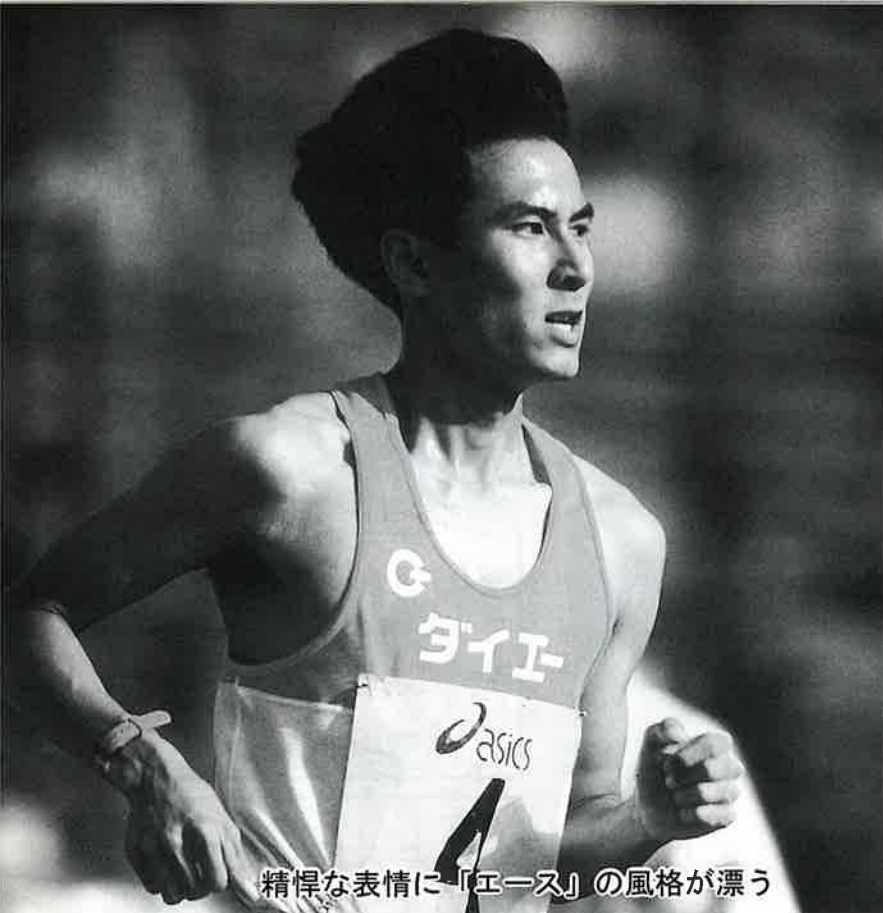
卒業・入学祝いなど
春先のお祝い事にピッタシ
簡単でおいしい 自慢の一品

材料(六人分)

米三カップ、水三カップ弱、合わせ酢、(酢45cc、砂糖大さじ1杯半、塩小さじ2杯)卵三個、人参二分の一本、紅シヨウガ、キュウリ大一本(グリーンピース)、ツナ缶大一缶(鮭そぼろでも可)

調味料(A)砂糖大さじ1杯半、醤油大さじ1杯半、みりん大さじ1杯、酒大さじ1杯

◇エネルギー 三七一キロカロリー
◇タンパク質 十六グラム
◇脂質 八・四グラム



精悍な表情に「エース」の風格が漂う

にしろうじて千葉に移り、避難宿をすることができました。たくさんの方の犠牲がありましたし、一カ月後に戻ってみると私のマンションの前の公園には仮設住宅の建設が始まっていたり、震災の影響でダイエー陸上部も福岡に移転するなど、多くの人が本当に大変な経験をしました。私はこの時から地震が一番怖いものとなりました。

スポーツ選手は肉体的にも、デリケートな面があります。環境の変化で、筋肉の状態も影響を受けるので大変でした。

大学箱根駅伝大会の思い出

後 藤 私たちは、本川選手の箱根駅伝での快走を忘れることはできません。オッオリ選手など、各校のエースが揃った「花の二区」で八人抜きを演じ、区間賞を取ったあの快走について、感想などを聞かせてください。

本川選手 あれは大学二年の時、私にとって飛躍の年でした。力も少しずつついてきて、調子の良い年であり、学生のトップレベルに入ったと実感できて、とても嬉しかったですね。この箱根駅伝でも調子が良くて、オッオリ選手をマークしていました。レースでは後ろからのスタートでしたので、オッオリ選手の調子を確認しながら走れたことも勝因と言えるでしょう。

後 藤 箱根駅伝はあなたにとって何でしたか？

本川選手 箱根駅伝は日本で一番古い駅伝大会です。そして学生ランナーにとっては大きな目標であり、その大会で走ることができ、区間賞まで取れて誇りと自信につながりました。その目標が達成できて、次は「オリンピック」が目標となりました。そんな意味で、私にとって箱根駅伝は素晴らしいステップになったと感謝しています。

実業団と学生との差は？

後 藤 実業団に入ってから感じる違いがありますか？

たかもりリバー人間登場



平成7年 全日本実業団陸上競技大会から積極的な走りが本川選手の「真骨頂」 レースを引っ張る

スポーツ Sports

「たかもりリバー人間」登場

まち出身の日本陸上界ホープに誌上インタビュー

本川 一美さん 大字色見

大学対抗箱根駅伝大会、都道府県対抗駅伝大会、実業団対抗駅伝大会など、日本陸上界で活躍してきた本川一美さん(24歳)の誌上インタビューを掲載します。本川さんは高森中学校卒業後、熊本工業高校、順天堂大学を経て、平成六年からダイエー陸上部に所属して活躍されています。本川さんと言えば、平成四年の大学対抗の箱根駅伝大会において、オッオリ選手など八人の優秀な選手を「ゴボウ抜き」した快挙を思い起こします。今回、その思い出や今後の目標などもインタビューしてありますのでご覧ください。

仕事や練習などで忙しい中にもかかわらず、快く本誌のために取材協力と写真提供をいただいた本川さんに、厚くお礼を申し上げます。また、今回の取材には「まちのスポーツ大好き人間」、町民体育祭で会場を湧かせる「実況放送」を担当している後藤和幸さんの協力を得ました。

都道府県対抗駅伝について

後 藤 一月に広島で開催された第一回都道府県対抗駅伝大会では、県チームのアンカーとして力強い走りで県民の期待に応えられました。その時の感想をお話してください。

本川選手 体調は年末から良くなりました。でも、故郷である熊本の代表としてチーム目標の十位入賞を目指して頑張りましたが、力不足で少し不満が残っています。

後 藤 今や全国的なランナーとして注目されています。名実共に熊本県のエースとして認められましたね。その時はプレッシャーはありませんでしたか？

本川選手 現在、県の代表として走るレースはこの大会しかありません。代表に選ばれ、最長区間を走らせてもらって光栄に思っています。

プレッシャーはいろいろなレースで慣れていきますので、特に感じませんでした。

レースの疲れを取る方法は？

後 藤 その他にも、去年の暮れから実業団レースなど、色々なレースが続きましたね。

レースでの疲労を取る工夫があるのですか？

本川選手 一月は三レースに出場しました。一カ月に三レースは、やはり疲れを取る間がありませんね。しかし、レースも練習の一環と考えていますし、レースが無くても練習を休むことはありません。練習しながら疲労を取っているということがあります。

ダイエーの本拠地神戸

阪神大震災の思い出

後 藤 昨年の阪神大震災では合宿所も被害を受けて大変でした。精神的にも大変だったでしょうね。

本川選手 はい。ありがとうございます。昨年一月十七日午前六時前、大きな揺れで飛び起きました。実際の被害状況は、停電のために昼のニュースまではまったく分かりませんでした。空は火災の煙で黒く曇り、消防車と救急車のサイレンだけが響いていました。商店では品物が散乱する中でも多くの人が食品を求めて列をつくり、公衆電話の前でも同じ状況が見られました。私たちは震災から四日後

後輩学生へのアドバイス

後 藤 今から陸上を目指そうとする小、中学生や陸上部で頑張っている中、高校生にアドバイスをお願いします。

本川選手 陸上というスポーツはものすごく孤独なスポーツです。自分なりに大きな目標と、これくらいならできるという目標を、それぞれにしっかりと立てて頑張ってください。走ることはとても苦しいことです。向上心が無くなったら負けです。自分に負けないように、精神的に強くたくましくなって、今後の人生にも生かしていきましょう。

今後の目標とまちの皆さんへのメッセージ

後 藤 本川選手への高森の人たちの期待は大きなものがあります。今後のレースの予定と目標、そして町の皆さん

「たかもりリバー人間」大募集

産業(農、林、商、工業など)、仕事、福祉、ボランティア、地域おこし、環境保護、動植物愛護、教育(家庭、社会、学校、保護者会)国際交流、文化、芸術、スポーツ、趣味、特技などなど...やる気とパワーで頑張っている方の情報をお寄せください。(年齢は問いませんが、高森在住者が高森出身者に限ります。)



あなたの真心 生かします



昨年10月1日から12月31日までの共同募金の実績は1,293,653円でした。町内の皆様の温かいご協力に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。

期間中の11月18日、今年も高森中学生徒会の皆さん10名が、高森温泉館などで街頭募金活動に協力いただきましたので紹介します。ありがとうございました。

広報たかもりでは次の募集を行っています。

「おかあさんといっしょ」子育ての楽しさ、楽しさを語ってください。「おとうさん」や「おじいちゃん」「おばあちゃん」といっしょもどうぞ。

「燃える若きやもん」熱意を持って仕事・学業に励んでいる若い方。(町内在住であれば町外勤務可) 各職場からの推薦 大歓迎!

「動物は友だち」動物大好き人間大集合。優しい人間性を育む動物愛護の観点から、いろんなお話し聞かせてください。もちろん犬、猫にかぎりません。その他、「何でもあり!」の広報たかもり。応募ください。

社会福祉協議会だより

共同募金 百二十九万円集まりました

新年句会入選作

肥後狂句

如月 (阿蘇御神火会)

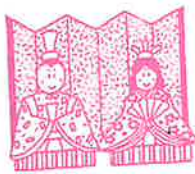
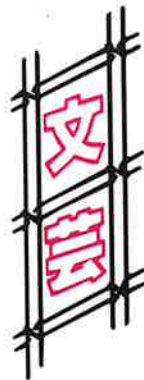
俳句

(河原すずき野句会)

新年も目出度もあり老い進む
立春や大樹の枝の落しあり
立春に最低気温と告げており
歳巡る大震災の寒の月
夕暮れて冬の銀河の阿蘇も良し
里山を重ね連ねて祖母も雪
夕茜寒林の麓染めにけり
世話役の電話蒐集雪の句座
忘れ居し踊りして見る春隣

森 正六
後藤やよい
森 政隆
本田 初雄
後藤 法龍
阿部タツエ
本田 訓子
後藤あらし
後藤 チエ

熊川 豊泉
田上黙公子
林 不忘
堀田 蘇仙
馬原 馬笑
岡本 琴司
林田 一声
渡辺 雲海
浦塚 南天
松野 笑声



二月十八日の日曜日、交通安全宣言大会が開催されました。これは交通安全を呼びかけると共に、「みんなで楽しく走ろう」と、町の体育協会が主催したもので、町内の駐在区や職場、学校などから十七チームが参加しました。

開会式では工藤智宏さん(JA高森が選手を代表して、「正しい交通ルールと、マナーを身につけます」と交通安全誓いの言葉を述べ、十時に駅前をスタート。選手の皆様は、たくさんの方の応援を受けながら町内を二周して、いざれ劣らぬ健脚を競いました。

大会結果

優勝 高森寮Aチーム (51分41秒) 2位 草部チーム (54分15秒) 3位 昭和チーム (55分51秒)

オープン参加の部

一位 高森高校陸上Aチーム (47分51秒) 高森高校陸上Bチーム (48分26秒) 高森中サッカー部Bチーム (49分32秒)

みんなのひろば

お気軽に遊びにお越しください 高森寮・梅香苑



高森寮では生花と雑巾作りに協力



梅香苑ではたくさんの洗濯ものをたたむ作業に協力

社会福祉法人の高森寮と梅香苑では、地域に開かれた社会福祉を推進しています。これは、入所されている方との交流を広げようと、催しものの開催など色々な取り組みを、それぞれに積極的に展開されているもので、まちの人の理解と協力も年々深まってきています。これまでも町内の幼稚園、保育園、小、中学校、高校の子どもたちや、地域や老人会、婦人会など、多くのボランティアと交流がありました。

これらの活動は入所されている皆さんの生きがいと安らぎ、そして喜びにつながると共に、訪れる人たちにとっても「優しい思いやり」や、理解と協力の精神が培われ、これからの福祉の増進にも「地域と人の和と協力」は欠かせない大切なものとなっています。

高森寮と梅香苑では、「お気軽にお越しください、楽しい語らいをぜひお願いします」と話されていました。

二月十四日、この二つの福祉施設で高森校区婦人会(佐藤イチ子会長、会員四六三名)の皆さんがボランティア活動を行いました。この日は十八人が二ヶ所に分かれて、必要な作業に従事し、その後入所されている皆さんとの交流も深められていました。

佐藤会長は、「実際にお役に立てる作業と、皆さんとの交流を続けていきたいですね」と話されていました。

